

令和6年度以降 学科到達目標(評価指標) 専門的能力【地域生活支援学科\_多文化コース】

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

コンピテンシー	到達目標	ベンチマーク 初歩的 Level1	マイルストーン 萌芽的 Level2	マイルストーン 達成的 Level3	キャップストーン 模範的 Level4 以上
I (態度・志向性)	【地域生活支援学科共通】 1) 食と福祉と多文化にまたがる複合的分野に対して、自ら積極的に興味を持って学修でき、「知識と技術の横のつながり」を人々への生活支援のために自律的に発揮できる能力を有している。	<input type="checkbox"/> 地域で生活している人々への支援活動を行うことが、将来の自分の仕事であるとの自覚と意識を持っている。  <input type="checkbox"/> 人々の生活支援に対して、「食生活に関する分野」と「福祉生活に関する分野」と「多文化下の生活の多様性に関する分野」での知識と技術の横のつながりの必要性を認識し、その修得に興味を持つことができる。  <input type="checkbox"/> 人々の生活支援に対して、「いのち(生きること)の大切さ」と「くらし(安全で安心な日々の営み)の大切さ」と「人生(人が生れてから死ぬまでの各ライフステージ)のあり方」に興味を持って考えることができる。	<input type="checkbox"/> 地域で生活している人々への支援活動の方法について、現在自分が学修している知識と技術を、ある程度具体的に対応させて考えることができる。  <input type="checkbox"/> 人々への生活支援活動に対して、自分が専門とする「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の各専門知識と技術を主体的に活用すると共に、他領域の人とのコミュニケーションや知識を複合化して、多様な対応ができる柔軟性を有している。  <input type="checkbox"/> 人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を効果的に結び付けることを企画することができる。	<input type="checkbox"/> 地域生活者への支援活動と地域の活性化活動に対して、自分が修得している知識と技術をどのように活かして貢献できるかを明確に示すことができる。  <input type="checkbox"/> 人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識と複合化してサポートすることに主体的に率先して具体的に対応ができる。  <input type="checkbox"/> 人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を的確に適用して実践的な立案と計画を立てることができる。	<input type="checkbox"/> 地域生活者への支援活動と地域の活性化への貢献に対して、自分が修得した専門の知識と技術をどのように活かせるかを明確に考え、自分の将来の職業としてのグランドデザインを描け、具体的な職種として明確に提示することができる。  <input type="checkbox"/> 地域の人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識や異なった分野の人と協調して複合的に活用して実践対応ができる。  <input type="checkbox"/> 地域の人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや多様な生活嗜好とライフスタイルなどに対応して、学修した知識と技術を的確かつ柔軟に適用して実践的に行動できる。
	【多文化コース】 2) 地域文化を理解・継承しながら、多様な人々の幸せと生活向上に自律的に取り組むことができる。 ① 地域の人々とお交流を積極的に図る。 ② 人々の幸せとは何かを考える。 ③ 身に着けた人間力により成果を発表する。	<input type="checkbox"/> 文化とは何か、人々の幸せとは何かを考えることができる。  <input type="checkbox"/> 地域学修体験は指示に従って予習等ができる。	<input type="checkbox"/> 日本の文化と海外の国の文化の違いを理解することができる。  <input type="checkbox"/> 文化の違いがどのような問題を生じているか、あるいは生じてきたかを考えることができる。  <input type="checkbox"/> 地球のグローバル化と異文化との関連を考えるようになる。	<input type="checkbox"/> 地域社会の人々や海外からの人々との交流を基に、幸せの意味の吟味や、生活向上についての取り組みを自ら考えることができる。	<input type="checkbox"/> 地域文化や世界の文化について、学生が自ら考えた内容を公に発表することができる。
	【多文化コース】 3) 国際社会の推移を注意深く観察し、グローバル社会に積極的に参画できる人間性を養う。 ① マスコミ等により社会の国際的動きを的確に理解する。 ② 国際情勢を客観的に分析する。 ③ 自ら考え、分析した社会の動きを発表する。	<input type="checkbox"/> 新聞やウェブを活用して世界の動きを観察する習慣を身につける。  <input type="checkbox"/> また、世界の人々との交流のために必要なスキルを磨き、社会に溶け込む方法を考えることができる。	<input type="checkbox"/> マスコミ情報等を吟味し、世界の出来事と日本の文化習慣との関連を考えることができる。	<input type="checkbox"/> 国際社会の重要な出来事をまとめ、学生が自分の考えとの相違を見つけることができる。	<input type="checkbox"/> 国際社会の重要な出来事をまとめ、その問題点を提起し、学生が自ら考えた解決方法を発表することができる。
II (知識・理解)	【地域生活支援学科共通】 1) 地域の特性に密着した日常レベルでの衣・食・住を根幹とした生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野とを連携した複合的知識と技術を有している。	<input type="checkbox"/> 地域の衣、食、住などのローカルな文化にも興味を持って学修でき、地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。  <input type="checkbox"/> 一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)に興味を持って学修でき、それを地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。  <input type="checkbox"/> 地域文化と異文化を融合して、シームレスな国際化社会で活躍していくことの重要性を理解できる。	<input type="checkbox"/> 地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を理解でき、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていけるかを具体的に示すことができる。  <input type="checkbox"/> 一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を理解でき、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていけるかを具体的に示すことができる。  <input type="checkbox"/> 地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に複合的に活用する方法を具体的に考えて示すことができる。	<input type="checkbox"/> 地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。  <input type="checkbox"/> 一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。  <input type="checkbox"/> 地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に活用する方法として、ある程度複合的に活用して実践することができる。	<input type="checkbox"/> 地域のローカルな生活特性と人々の多様な考え方とライフスタイルを尊重しながら、身に付けた豊富な教養知識を自然態で活用して、生活支援の専門職業人として社会で活躍できる自信がある。  <input type="checkbox"/> 修得した教養を実践的に活用し、ホスピタリティ精神(おもてなしの心)溢れる柔軟な対応で、「食」や「福祉」や「多文化」の各分野での専門職業人として、社会貢献と地域の人々への生活支援活動ができる具体的な職業へのグランドイメージ(人生設計)を示すことができる。  <input type="checkbox"/> 地域の衣、食、住などのローカルな諸文化知識と人文、社会、自然科学分野の基礎教養知識を複合的に連携しながら、地域の人々の生活の質(QOL: Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)としての具体的な職業に就く強固な意志を持っている。
	【多文化コース】 2) 世界に展開できる人間性をもった社会人として必要な体力、語学力(英語、中国語、ハングル語等)を身につける。 ① 自分に合った外国語の学習方法を見つける。 ② 海外からの学生や研究者に積極的に話しかけ、自分の意見を説明する。 ③ 専門語を交えながら、留学生や訪問者に外国語で交流する。	<input type="checkbox"/> 正しい日本語の使い方を復習しながら、英語、中国語あるいはハングル語等を日常の生活用語を身につける。  <input type="checkbox"/> 日常的に外国語を学修する方法を検討し、自分に合った方法を見つける。	<input type="checkbox"/> 選択した外国語を使って、海外からの留学生、訪問者と日常のコミュニケーションができる。	<input type="checkbox"/> 選択した外国語を使って、食、福祉の専門用語が使えるようになる。	<input type="checkbox"/> 選択した外国語を用いて、自ら提起した特定のテーマについて、発表できる。
	【多文化コース】 3) 海外の国々や日本の文化を素直に理解し、認め合う社会人となるための情報を的確に収集・発信できる力を身につける。 ① 我が国の文化の特徴を理解する。 ② 海外からの学生や訪問者から異なる文化を理解し、我が国の文化と比較する。 ③ 我が国の文化の特異性を抽出し、外国語により説明する。	<input type="checkbox"/> 新聞やウェブを見る習慣を身につける。  <input type="checkbox"/> 毎日の重要な出来事をメモし、ファイルとして保存する。	<input type="checkbox"/> 海外からの留学生、訪問者と交流し、日本文化の特徴を発信できる。	<input type="checkbox"/> 選択した外国語を使って、海外からの訪問者と文化について話し合える環境を醸成する。	<input type="checkbox"/> 選択した外国語を使って、留学生や海外からの訪問者と文化について話し合える。

III (技能・表現)	<p>【地域生活支援学科共通】</p> <p>1) どのような状況の変化と人々にも対応できる食と福祉と多文化にわたる汎用性のある知識と幅広く活用できる技能および柔軟な人間性を持った有機的な生活支援ができるコンシェルジュにふさわしい能力を有している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識あるいは技術の他にも、連携活用できる他領域の学修へに興味を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々への生活支援活動は、単領域の専門家(プロフェッショナル)と関連する多くの異なる分野の各専門家との協力が必要であることを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域の専門家とも協調しながら、自分のプロとしての知識と技術を活用して、地域の人々への生活支援がしたいとの強い意志を持っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の学修もしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の特性と人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への生活支援活動ができるための学びの準備が進んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援のプロとしての知識と技術の修得が順調にできている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などを含めて広範な支援能力が身に付いてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるための能力が身に付いてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援の汎用的専門家(コンシェルジュ)としての知識と技術の修得も順調にできている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の根幹とする知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などの修得ができており、専門職業人として、および汎専門的立場での広範な生活支援能力が身に付いている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるコンシェルジュとしての自覚も持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達共、自己の専門性を活かしながら協調連携して、地域の人々に対して多様な生活支援が汎用的専門家(コンシェルジュ)としても可能な広範な知識と技術の修得と蓄積ができてきている。</p>
	<p>【多文化コース】</p> <p>2) 食と福祉の視点を持ち、ホスピタリティ精神にあふれる生活支援ができるスキルを身につける。</p> <p>① 我が国の食と福祉に関連するホスピタリティの特質を把握する。</p> <p>② 海外のホスピタリティとの比較を行い、おもてなしのスキルを高める。</p> <p>③ 本学への訪問者に適切なおもてなしができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 日本文化に根ざしたおもてなしの心の本質を考えることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 和食の良さや日本の福祉政策について情報を収集し、地域の生活支援の在り方を検討することができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 和食の良さや日本の福祉の在り方をまとめ、学生のおもてなしのスキルを高める。</p>	<p><input type="checkbox"/> 修得したおもてなしのスキルを地域社会や海外からの訪問者に対して実践できる。</p>
	<p>【多文化コース】</p> <p>3) 基礎語学力(日本語、英語、中国語、ハングル語等)を活かし、海外からの留学生、観光客、地域の人々と異文化交流ができる。</p> <p>① 自分で選択した語学学習方法により継続して基礎学力を身につける。</p> <p>② 海外からの訪問者と積極的に会話する。</p> <p>③ 地域の人々と海外からの訪問者の橋渡しができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 講義以外で最適な語学学習方法により、自ら進んで外国語を学修する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 留学生や海外からの訪問者と積極的にコミュニケーションし、その経験を蓄積する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学修している外国語を用いて、地域の人々と海外からの人々とのコミュニケーションの橋渡しを経験することができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学修した外国語を活かして地域の人々や海外からの訪問者と異文化交流ができる。</p>
IV (行動・経験・創造的思考力)	<p>【地域生活支援学科共通】</p> <p>1) 生活の要素を科学的に分析・把握することにより生活全般を見渡せる俯瞰能力を身に付けており、経験をもとにした創造的発想ができる。「マルチに学び、マルチに活動する」生活支援のプロフェッショナルにふさわしい能力を有している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と生活支援活動には、人々の具体的生活実態についてのデータを科学的に分析する必要があることが理解できている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々のライフスタイルは、非常に多様化しており、その一端のみを垣間見ることは把握できなく、より広範な生活全般(いのち、暮らし、人生)を広い視野から俯瞰的に見渡す能力が必要であることへの認識ができてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 現在学んでいる基本的知識と技術を実践的生活支援活動に活かすためには、経験知と経験を下地にした技能が必要であることへの認識を持っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援活動を行うためのデータの収集方法および科学的に分析する手法などの個々具体的な方法を使用することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイルを、「食」と「福祉」および「多文化」を基盤とし、さらに「いのち(生命)」と「暮らし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを複合的に組み合わせて俯瞰的に対応できる能力の修得ができつつある。</p> <p><input type="checkbox"/> 現在、座学(主に講義授業)をもとに学んでいる基礎的知識と技術に加えて、演習や実習などから得る体験的知識と技能などが身に付き始めている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析活動の具体的な計画の立案と企画ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイルに対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「暮らし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に考え、学修に臨むことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 学内、特に学外での地域連携活動を活動フィールドとした演習や実習授業で体験的に修得した実践的知識と技能などが着実に身に付いている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析から得た結果を精密に考察した上で、さらに自分なりの考えて人々へのより効果的な支援活動に乗り出すための斬新な発想ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイル志向に柔軟に対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「暮らし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に実践行動することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 学内、特に学外フィールドでの地域活性化活動および人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)として、実社会での活躍ができる実践能力を持っている。</p>
	<p>【多文化コース】</p> <p>1) 地域の人々と積極的に交流し、地域の人々のニーズを的確に把握し、問題解決のための行動ができる。</p> <p>① 地域の人々との会話をする機会を積極的に設ける。</p> <p>② 地域の問題点を交流を通して発掘する。</p> <p>③ 発掘した問題点を解決する方法を提案する。</p>	<p><input type="checkbox"/> これまで培ってきた地域の人々との交流実績を学び、地域生活を支援するための問題、課題を抽出することができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域との交流において、これまでに課題として残されてきた問題について効果的な解決方法を検討できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域交流の問題解決方法を提案し、実践に移すことができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 実践した問題解決方法を検証し、次の交流に繋げることができる。</p>
	<p>【多文化コース】</p> <p>1) 地域の人々や海外からの人々との交流により得られた文化、生活情報を分析し、次の行動指針にできる。</p> <p>① 海外からの訪問から文化、生活情報を得る努力をする。</p> <p>② 異文化が共存できる環境について考える。</p> <p>③ 考えた環境を実社会で整える行動を起こす。</p>	<p><input type="checkbox"/> 留学生や海外からの訪問者が地域の人々などどのように交流できるかについて、推察できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 異文化をもった海外の人々と地域住民の意識の違いを把握しながら、異文化交流の重要性を学ぶ。</p>	<p><input type="checkbox"/> 異文化から生じる生活様式の差異等をまとめ、交流の意義を広める。</p>	<p><input type="checkbox"/> 留学生や海外からの訪問者や地域の人々とこれからの交流の在り方を議論し、次のステップに繋げることができる。</p>